



# 七月の幼児生活

東京府女師附屬幼稚園 卜 部 た み

七月の主材

◎夏の暑さ(幼児自らの生活、外界の観察)

◎七夕祭り(お盆會)

◎青梅の取入れ、及桃梨葡萄等のみのり、

◎朝顔、ダリヤ、其他夏の草花及びその手入れ、

◎蠶の飼育觀察、其他動物飼育

◎水遊び、其他夏の遊び

◎夏の昆蟲(バッタ、イナゴ、蟬、蝶、蜻蛉採り)

(鈴蟲、松蟲、きりくす、くつわ蟲、螢等飼育)

◎蚊、蠅其他の害蟲の害、及びその驅除

◎夕立、雷、虹、其他夏の天態。夏働く人々の活動

◎夏休の樂しみ、夏休みに際してのお別れの會

◎保育時間短縮(午前七時半——十時半)

◎夏休み中の生活(海岸或は温泉其他の生活)

(附記)

休暇中に於ける生活の教育的利用に資するため  
に、休暇前約一週間は數人宛の保護者會(保姆  
との面會打合せのため)をひらき、なほ次の様  
な印刷物を交布いたします。

△夏休み中の保育上の心得となるもの。幼兒及保  
護者名簿

△今學期中保育の概要。保育狀況(學報にも記載  
す)談話、遊戲、手技、觀察事項、唱歌、其他

の題目、要項、樂譜等(但し是は凡そ毎月配布)  
△身体検査表、各幼兒身体發育比較表、其他調査

の一般

曜 週	第 一	第 二	第 三
1	<p>自由遊び まゝ事、積木、笹舟、其他)</p> <p>觀察 小學校庭—寄宿舎庭—本校—門前 (電車、自動車、撒水車、人力) (自轉車、其他)</p> <p>手技(圖畫自由發表)、切拔、貼紙 談話(繪の説明的發表) 唱歌、遊戲(復習)</p>	<p>飼育物の世話(ひよこ)</p> <p>談話(ひよこの話)</p> <p>唱歌(ひよこ)(新授)</p> <p>汗の問答</p> <p>手技(團扇作り、銀杏の葉にて)</p> <p>水遊び(油屋ごっこ、水鐵砲其他)</p>	<p>自由あそび</p> <p>朝顔のつる手、水やり、草とり等</p> <p>蠅、蚊等の觀察</p> <p>害蟲について話</p> <p>蠅とり袋作り、蠅とり</p> <p>唱歌、遊戲(ひよこ其他)</p>
2	<p>自由遊び(同前)</p> <p>其の間に文字調査</p> <p>談話(お星様)</p> <p>手技(星形塗繪、切拔)</p> <p>水遊び、其他自由遊び</p>	<p>自由あそび</p> <p>文字調査(同前)</p> <p>觀察 小學校庭—校舎内—理科標本室—各 教室貼出しの圖畫成績—琴四男 砂場共同作業(地型作成)</p> <p>手技(自由畫に發表)</p> <p>唱歌(ひよこ、夕立其他)</p>	<p>自由あそび</p> <p>文字調査(同前)</p> <p>蟲類觀察(きり)す、すゐつちよ)</p> <p>水遊び、しゃぼん玉</p> <p>遊戲及唱歌(練習)</p>
3	<p>身體検査</p> <p>自由遊び(同前)</p> <p>談話(夏休み)</p> <p>幼兒自由發表</p> <p>自由畫</p> <p>同上展覽會</p>	<p>自由あそび</p> <p>花壇の手入れ、水やり、草とり等)</p> <p>談話(河童と雷)</p> <p>お手紙ごっこ、郵便配達のカバン作 り</p> <p>唱歌、遊戲(練習)</p>	<p>自由遊び</p> <p>にはとり、小鳥、花壇の世話</p> <p>談話(人形の旅行)</p> <p>手技(繪の内容の一部塗繪)</p> <p>旅行ごっこ(と製の輪にて汽車を作 り走りまはる)</p> <p>遊戲、唱歌(練習)</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>自由遊び            (庭の木影に集合)            空、雲行、曇天等の観察            音と聲のきき分けあそび            ごろ／＼おとしの遊び            唱歌、遊戯(夕立及其他)            談話(七夕祭りに就て)            手技            七夕祭りの仕度            (折紙、たんざく作り等)</p>	<p>自由遊び            花壇手入れ、あぶら蟲たいぢ            蟬の聲を追つてあそぶ            談話(夕立、虹)            手技 塗繪、虹の橋            七夕祭り仕度のつどき</p>	<p>自由遊び            七夕祭り仕度            色紙、短冊に文字、繪をかき竹に            つける            七祭り(尋一合同)            七夕様の話、談話、本讀ミ            お話あそび、遊戯、唱歌</p>
2	<p>自由遊び            (數觀念調査)            肋木、輪ぐり、リレー、平均臺            等運動            手技(誕生會のおくりもの作り)            (圖畫、手工テープ、キビガラ)</p>	<p>自由遊び(調査)同前            (數觀念調査)            誕生會準備            誕生會(尋一合同)            觀察、校庭)            (青梅、桃、梨の買其他)</p>	<p>自由遊び、(色觀念調査)            注意集注練習(お目々つぶり)            蓄音機をきく            談話(お盆のはなし)            手技(提灯作り、塗繪及切抜)            お土産とす</p>
3	<p>觀察            (朝顔のつぼみ、花のいろ／＼)            (蛇目草、ひまわり、ダリヤ等)            校門            竹早町道新工事作業、タンク            トラック、自動車、其他            自由畫            唱歌、遊戯(練習)</p>	<p>自由あそび            唱歌、遊戯練習會            (談話)            夏休みの楽しみ、注意</p>	<p>終業式。</p>

幼二 七月の生活

曜 週	1	2	3
<p>第 一 節</p> <p>自由遊び 花壇の手入れ、朝顔のつるに手をやる 水遊び、水まき 油屋ごっこ この間に数、文字に 水屋さん 關する表れあり除々 金魚さん に整理す 唱歌遊戯—水鐵砲、螢其他</p>	<p>自由遊び 七夕祭及七月生れ誕生會</p>	<p>自由そあび 水遊び多し、其他同前 身體検査 觀察 傳通院境内—葉櫻—附近建築作業 場の活動</p>	
<p>第 二 節</p> <p>園内觀察 (蟻の巢、蟻の卵、かたつむり及その卵、きりぎりす其他昆蟲飼育) 水遊び(手技) 水鐵砲つくり及笹舟作り 唱歌(笹の舟)新校及其他 遊戯(復習)</p>	<p>自由遊び 觀察(夏の庭) (本校—小學校—銀杏等—寄宿舎庭) 豆のつる、藤のつる、ぶだうのつる、朝顔のつる、つたのつる其他 草花、銀杏の葉の色のかすり方 手技 銀杏の葉にて、せんす、うちわ作り</p>	<p>植物園行き 午前八時—十時 涼しき木影に遊ぶ 水蓮、蓮、其他夏の草花、青梅 其の他の實のり、蟬、蜻蛉、バッタ等採集</p>	
<p>第 三 節</p> <p>自由そあび 觀察 (同心町電車線路工事) 鶴嘴の一勢に揃ふ様。 漸次に揃つて位置のかはる様。 唄聲の如き掛聲、トラツク、車道歩道の別 (小石川高等小學校建築作業場) 手技 觀察(發表)自由畫、粘土等</p>	<p>自由遊び(數觀念調査) 自由畫及手技 (粘土) 唱歌遊戯練習 水あそび</p>	<p>自由遊び 花壇手入れ、水遣り つるの手入等、害虫除け 植物園ごっこ 砂場につくる 幼一お客様になる</p>	

		曜 週	
六 第	自由遊び(色の觀念調査) 七夕祭りの仕度(手技) (色紙、短冊作り其他、竹の葉に つける) 談話(七夕祭りのこと) 唱歌、遊戯、お話遊び	四 第	自由遊び(文字調査) 水遊び、しゃぼん玉、水鐵砲 箱庭作り、花壇の手入れ 手技 昨日の觀察の記憶畫 (工夫の鶴嘴の繪多し) 唱歌遊戯(笹の舟、其他)
五 第	自由遊び(色の觀念調査) 七夕祭りの仕度 手技(材料隨意、手工テープ、折紙 (キビガラ) 夏休みの旅行ごっこ (汽車遊びの發展) 夏休みの楽しみの問合も行はる 唱歌、遊戯(同前)	三 第	自由遊び(數觀念調査) 觀察(蠅、蚊、蜘蛛、蜘蛛の巣) 談話(蜘蛛と王様) 手技(自由畫) 繪の展覽會
六 第	自由遊び お盆會の話(銀杏寺の墓參) 手技及自由畫 色紙、手工テープにて 提灯作り(お土産とす) 唱歌遊戯(練習)	二 第	自由あそび 園内觀察 (ひまはり、朝顔のいろ、ダ リヤ、たんばぼうづき等、おう と、蟬、とんぼ、ぼうふら等) 唱歌(私の花壇)新授 唱歌、遊戯(練習)
五 第	自由遊び 休暇に際しての送別懇親會 幼兒、尋一) (お話あそび、朗讀 遊戯、唱歌、談話等) 夏休みの楽しみ、注意、約束等	一 第	自由遊び 談話(夏休みの話) 夏休みのお手紙 郵便遊び 同前(暑さの見舞の意見等 唱歌、遊戯(練習會))
六 第	終業式	六 第	自由遊び

## 五月の保育手帳から

五月の初めには二の組即ち年長組の幼児の各家庭に、生活調査として次の様な問合せを致して見ました。

### 幼児の生活調査(二ノ組)(幼児の名)(母の名)

1. 昨今はどんな方面に最も興味をもつてゐますか
5. その以前は。それはいつ頃からいつ頃迄でしたか。それは何かの影響と思はれるものがありますか。

3. それら子供の興味をどんな風にお取扱ひになつて居られますか。

4. 日常「自分の事は自分でする。」といふ様については、どんなお取扱ひをして居られますか。

5. 御家庭で使用の遊び道具、繪本、其他。御記入下さい。

### 6. 幼稚園への御感想

・特に注意ありたしと御希望の事。

b. 特に良いと思ふ事。

c. 質問。

d. 其他。

右の回答に就ては前年と今年度の二回分をまとめて記してみたいと存じます。家庭と幼稚園の聯絡の實際として、なるべく母親のおくり迎へを主とする様、やむを得ぬ都合のものは少くとも月に一二回は母親自身園をのぞき保母はせめて立話となりとも、保育上の打合をしたといふ心持で、殆どそれが實行されて居ります。けれども又時々此の様に全般にわたつて回答を求める事を致しますと、私共の参考資料を得る事は勿論として、かなり家庭への刺戟を提供するよすがとなるのを感じます。従てそれが子供達の生活の上によい影響を來す事も嬉しい事でございます。

回答者は男女各十五名、合計三十名。1項の答は「幼稚園手技に關するものが殆ど全部で、即ち

繪をかく事、或はそれを切り抜いて立て、遊ぶ事  
 女兒は着せかへ人形を作る事等。」中に文字をかく  
 事、讀む事、數へる事等に興味がむいて來たとい  
 ふのが全体の三分の二程で、又その反對に盛んに  
 文字や數に關した質問があつたものが四月以後全  
 く打ちすて、只三輪車其他で戶外遊びに心をひ  
 かれてゐるといふのが男の中に二名程ある外、別  
 にかはつた事はありませんでした。2の項も季節  
 の關係もありますが、遊びの傾向が、多く幼稚園  
 生活及び家庭の兄弟姉妹の影響によるといふのみ  
 で、幼稚園で考へてゐたのと殆ど一致した結果で  
 した。

本年は男の子で凡そ其の組の中心になつて居る  
 子供が、四月以來活動寫眞の影響と見られる遊び  
 を輸入して困りますので、調べますと、矢張家族  
 の人、或は澤山の雇人達と見にいささうでしたの  
 で、早速家庭にも注意し、他の面白さうな遊びへ

轉換する様仕向けました。數日の後庭の眞中へ椅  
 子テエブルを持ち出し、そのまはりに男の子數人  
 を集めて自分が中心になつて、頻りに大きい聲で  
 指圖をして働いて居ります。テエブルの上には飯  
 事道具が少しばかりと石や木の葉がならび、その  
 周圍に腰かけた男の子達は大きい長い砂鎗を腰の  
 バンドにさしたまゝなので、初めは戦争ごつこの  
 後の一休みかとも思はれました。

中心になつてゐるその主人公の聲をきくと、

「チキンライスとハムサラダ。」

「ライスカレー二枚。」「それからえいとカツレッ  
 つ。」

「はい、おまちどうさま。」

担任のT先生が砂場の側でみてゐた私の耳もとへ  
 「ちよつと。まあYちゃんは今度は……………」

二日程経て久々でお迎へに來られたお母様にたゞ  
 すと、果せるかな、此間からお家の直ぐ傍へ新ら

しく洋食屋が出来たといふ事でした。(Yちゃん  
東京の繁華な下町にかなり手廣くしてゐる醫師の  
家庭に、大きい姉ばかりの末子として、然も只一  
人の男の子として育てられて来て居ります。)

此の様に遇々わかり易い表れとして子供の生活  
を知る事が出来ました。けれども、同じ様な事が  
もつと目立たずに、或はもつと子供の純な心に悪  
い汚點を作つて行きつつある事を、保母も母親も  
知らずに過してゐる様な事はありはしないかと考  
へますと、ひやりといたします。

第3項の興味を取扱に於て、成程と思ふ回答を  
得てゐますが、中に一名は「放任主義」「自由主義」  
と書きはなしのが二名ありました。よき主義であ  
るべき筈の是等も、人により、考へ方により、方  
法により一寸解釋に迷ふ事があります。

第4項はそれ／＼具体的の方面を書いたのが多  
う御座いますが、中に「言ふてきかせますが、實

行いたしません。」といふのがありました。幼児が  
口で言はれた丈で實行が出来たら、家庭教育にも  
幼稚園教育にも考慮や苦心や煩悶がなくなつて、  
ほんとに極樂です。幼児訓育に就ては、先づ第一  
の「子供其のものを知る。」といふ事が、母親保母  
にとつて、もつと／＼切實に考へられねばならな  
い事を感じますと同時に、自分の見等方面に對す  
る智識の特に足りなさに、身の惜き處もなく感じ  
ました。

第5項に就ては是迄時々行つたものと一緒に纏  
めていつか記しませう。

第6項のa希望は各個人にわたる事のみで一般  
としてはあまり御座いません。例へば、注意集  
中する様。他人に對して出しやばるを直したき事  
遊びの編しない様色々の方面に仕向けられたき事  
等。

b項では園外保育の多い事。それをよく利用し



て呉れる事といふのが非常に多数で御座いました  
 c の質問の項も殆ど是と似て居りますが、その  
 中の二三を記して御教示を願ひ度う存じます。

○童謡(唱歌)はなるべく心持よく響く、よい内  
 容を盛つた美しい言葉が望ましいと思ひます。隨  
 分澤山に發表される作をどん／＼教はつてくる近  
 所のお子様方からのきゝ覺えの中には如何かと思  
 はれる點もありますので、子供に與へるものとし  
 ての廣い立場から整理していただく事は出來ない  
 のでせうか。

○遊び道具(例へば飯事道具)を始末させようと  
 すると、そのために遊びを止めるやうな事をどう  
 したらよいでせうか。

○子供の事ですが、此頃のM子の様に少しも智  
 識欲のない場合、こちらからは何も與へず自然に  
 慾の起つてくる迄待つてゐる方がよいでせうか。  
 少々は起させる様仕向けた方がよいものでせうか

幼稚園ではかういふ事に就てどういふ様にしてい  
 らつしやいますか。

○

以下省略

四月廿七日の事で御座いました。

風のために二日程休んだ正己さん(四年二ヶ月)  
 は、相變らずなかなかお母様の手を離し難い様子  
 で居ります。やさしいお母様は、色々となだめす  
 かして居りました。暫くたつた後

「今日こそ思ひ切つて歸らうと有じます。いつま  
 でも同じですから。只今御不淨へ一緒に行くと申  
 しましたので、私も這入ると申してその間に置いて  
 來ましたから、出てまゐりましたら宜しく御願  
 ひ申します。」

「あら。だまつて？では正己さんはあそこに？」  
 とお母様の後姿にとひかけ乍ら、ブランコの押し  
 手を傍にゐた先生にたのんで、急いで駆けていき

ますと、手洗の所に半泣きの正己さんが獨りたつてゐます。

「どうなさつたの、正己さん。」

「ママちゃんが見えないの……………」

「……………。あつちへいつておさがしませう。」

「ウウン。こゝよう。先生さがして頂戴よう。あ

けて……………」

順々にノックをしたり、空らしい戸を明けたりして後、結局二階の附添の室につていらつしやるといふ事になつとくさせました。今度は二階へ行きたいとせがみます。「お手々をきれいに洗つて先生としつかりつないで居ませう。」と連れ立ち、一時間程は専ら正己さんに氣を配りつゝ遊びました其間に丁度よい友達も選ぶ事が出来て、お部屋に入る頃には全く泣きがやんでゐました。「ころりん爺さん」のお話を聞いたり、唱歌をうたつたりしてからお辨當になりました。食事の度に思ふ事で

すが、殊に何もかも打ち忘れておいしさうに食べてゐる正己さんの顔をみて居ると、「幼児教育に於ける食べる事の教育的價値。」といった題目でもつけたい様な事を又考へるので御座います。

お辨當以來親しくなつた勉さんと一緒に遊んでゐる正己さんは、もう當に遊びに餘念がありません。

さうなると今度は、私の方が氣がゝりになり出しました。

「もう一時にもあと廿分。正己さんのお迎へもそろ／＼來て呉れなくては。お迎へがおそいと又あと戻りになるかも……………」  
『ママちゃんお二階だつたのね。』なんてとびつくだらう。」

一人宛順に「さようなら。」を初めた時、外のお迎へのむれの中に、正己さんのお迎へをちらつと見つけました。同時に「はつ」としました。

それはお母様であるとはかり信じてゐたお迎へ

が毎日のお附きの女中さんであつたのです。「お二階にいらつしやる」などと、一時のがれを言つた私の心も知らないでか。

「先生、うそつきねえ……。」そんな言葉を聞けばまだ幸せの事。口には何の發表がもれないでゐて純真な心を傷つけたり、いためたりする結果になつたら……。「けさの場合はそれより仕方がなかつたのだけれども……。」「子供を悪くするのは大人だ。然もかりにも保育者などと特別の名をもつてゐるくせに是だ。保育の實際に當つては——その時々にも最も適當の處置、最善の方法と信じたそれにむかつて——こんな言ひ草だけは人真似をして……。」

「やつぱりあのお母さんにもつとよく話しておいで、無理のないよい機會を待たせればよかつたのに……。」「結果をいそいだ矢敗の適例を來してしまつた。それにしても何といふ口實をつくらういや何と詫びようか。」こんな事を考へ續けてゐる間に一列並びが出來ました。

遇然か私の心を知つてくれてか、今日に限つて

正己さんは一番しんがりにすまして番のくるのを待つてゐます。とう／＼番がきました。

「先生さようなら。」

「さようなら。今日は強い、お子さんになりましたね。」

「人の子を育てる正しい道もおぼつかない保母のくせに……。」といふ様な責めが顔を上氣させてきますのと胸の間に大きな塊のつかへた様な私は、下駄箱へ走つていつた子供達のあとへ一二歩足を進めた時でした。突然、正己さんが私の方へ駆けて來ていきなり飛びつきました。

「先生！ ぼく 今日から送り迎へだつたのよ。」

「……。」「反射的に正己さんを抱き込んだ私の嬉しさは、とても／＼かき表はす事が出來ません。」

「おくり迎へ」の實行者になれた愉快に輝いたその歡をみるにつけ、あのいつもの不安の顔の中に幼児ながらに強い子にならうと努めてゐたあとを愈々はつきり知る事が出來ます。

私共は眞當に子供に教へられ、救はれて居ります。